

初学者向けデータベース紹介サイト 「来たぞ！データベース戦隊！」制作記

Making of introduce databases site for beginners:
“Here comes the Database Rangers: Database Tutorials for Members of Shimane University”

佐藤 陽子*
SATO Yoko*

Abstract:

This paper shows the process used to create a site to explain database use and clarifies several points of improvement. Shimane University Library has a project team to educate library users. This team created and released a site for beginners called, “Here comes the Database Rangers: Database Tutorials for Members of Shimane University” in May, 2017. The site contains some comics that introduced how to use the most commonly used databases in the library. Those databases have been anthropomorphized by the illustrator.

The process used to create this site had a four stages. First, a proposal was made and its contents were explained to the team members. Second, the databases used by the institute were requested to permit the creation of images that anthropomorphized and illustrated them. Third, the images were produced. And fourth, copyright agreements were signed by the illustrator and TOEI COMPANY, LTD.

However, the process used to create this site had some problems. The first problem was that an initial agreement was not made with the illustrator. The second problem was that the library staff did not notice the possibility of copyright infringement until just before the site was completed. It is necessary to prevent recurrence of these problems.

Keywords:

user education; universities library; database; comic; copyright

*島根大学附属図書館 医学図書館

Shimane University Medical Library 89-1 Enya-cho, Izumo-city, Shimane, 693-8501

I. はじめに

2017年5月9日に、島根大学附属図書館（以下、「本学図書館」という）は初学者向けのデータベース紹介 web サイト『来たぞ！データベース戦隊！』（以下、「当サイト」という）を公開した（図1）。当サイトでは、医中誌 Web 等のデータベースを擬人化し、利用者個々の状況や所属するキャンパスに応じて、漫画等でデータベースを紹介している。

当サイトは、構想から公開までに約1年半かけて制作された。その過程には、各種の著作権処理や、イラストレーターとの契約、手順において改善すべき点がある。本稿では、当サイト制作に至る背景や作業課程を説明するとともに、より望ましい流れや今後の展開を考えたい。

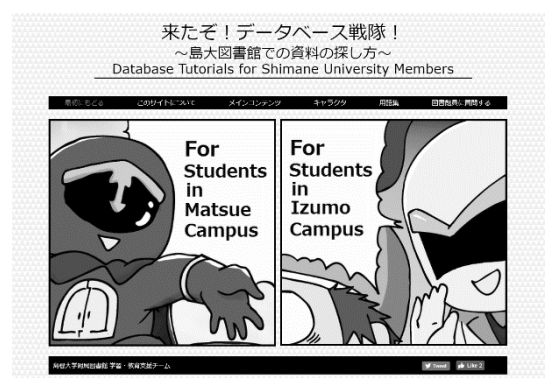


図 1

II. 当サイト制作の背景と目的

島根大学は松江市と出雲市にキャンパスを持ち、松江キャンパスに本館、出雲キャンパスに医学図書館がある。本学図書館には、係の枠を超えて目的ごとにいくつかのチーム

がある。そのひとつ、当サイトを制作した学習・教育支援チーム（以下、「チーム」という）は、本館の受け入れ担当者やサービス担当者の他、医学図書館のサービス担当者が所属し、主に図書館による学習支援や教育支援の検討を行っている。

当サイトの制作は一人の若手職員の提案から始まった。「図書館でよく使用されるデータベースを、いわゆる『戦隊もの』のようなキャラクターにし、漫画等を使ってわかりやすい紹介 web サイトを作る」という発案は、本学図書館では前例がないものだった。会議の参加者たちは提案に対し初めは戸惑いを見せたものの、おおむね前向きに受け止めていたと記憶している。著者は、提案した職員とともに当サイト制作の主担当者となった。

最初に、当サイトの目的を「初学者がそれぞれの状況に応じて、どのデータベースを使えばよいかを判断する手助けを行うこと」と定めた。この背景には、既存の教育支援方法の穴を埋めたいという思いがあった。チームでは、利用者が自主的にデータベース等の使い方を学ぶ機会を提供するため、2014年度から継続的に LibGuides を使用し、データベースごとの使用手引きを制作・更新している。しかし、本学図書館制作の LibGuides のページは、すでにデータベースを使用したことのある人にとって、より詳しい検索方法等を知るための一助になるかもしれないが、そもそもどのデータベースを使えば良いか分からないような初学者のことを想定したものになっていない。このような教育支援方法の穴を埋めるために、当サイトを制作することになった。

また、当サイトに期待する効果は2点ある。1点目は先述の通り、初学者の手助けとなり、初学者が自らの判断で適切にデータベースの選択ができるようにすること。もう1点目は、当サイトから LibGuides へのリンクを適宜行うことで、LibGuides がより閲覧・利用されることだ。

III. 実際の当サイト制作の流れ

当サイトの制作期は大きく4期に分けられる。1. 提案・館内での合意形成期、2. データベース提供元へのキャラクター化に関する許諾依頼期、3. 制作期、4. イラストレーターや東映株式会社との著作権処理期である。以下、時系列に沿って概略を説明する。

1. 提案・館内での合意形成期 (2015年9月～2016年2月)

提案者が当サイト制作を会議の場で発案した当初、チーム内から当サイトの全体像が知りたいとの声があった。そこで、主担当者同士、時にはチーム外の若手職員を交えて話し合いを行い、提案者が考える当サイトの完成形を視覚化するよう努めた。これらの話し合いを元に提案者自身がキャラクターの下絵を描いて、たたき台となるページを制作し、2016年1月にチームに提示した。かつて本学図書館で図書館コンシェルジュをしていたイラストレーターのオオツカタクト氏に、キャラクターや漫画の制作を依頼することになったのもこの時期である。依頼を行うため、各データベースを擬人化したときの下絵を準備した。松江キャンパスでよく使用するデータベースについては、同キャンパス所属の提案者が下絵を制作した。著者は出雲キャンパスで使用される医学・看護学系のデータベースの下絵担当で、制作にあたっては、キャンパス間でキャラクターの見た目に大きなずれが生じないことを意識した。そのため、まず提案者作成の下絵にあるキャラクターを素体と定め、各データベースの特徴を意識して付与する要素を考えた。これにより、見た目は似ているが各データベースの特徴を備えたキャラクターを作り出せた。また、2017年4月に当サイトを公開することを目標に、館長からの制作承認も得た。

2. データベース提供元へのキャラクター化に関する許諾依頼期 (2016年3月～5月)

イラストレーターからキャラクターのイラストが提案されたところで、キャラクター化の許諾を得るために各データベース提供元に依頼文を送付した。依頼文には、イラストや当サイトの制作意図も添付した。

ほとんどの機関・会社がキャラクター化について好意的に対応してくださった。最終的に、医中誌 Web (医学中央雑誌刊行会)、メディカルオンライン (株式会社メテオ)、島根県内図書館横断検索 (島根県立図書館)、CINAHL (EBSCO)、CiNii Articles と CiNii Books (国立情報学研究所)、NDLサーチ (国立国会図書館)、UpToDate (株式会社ウォルターズ・クルワー・ヘルス・ジャパン)、Web of Science (現 Clarivate Analytics 社。依頼当時はトムソン・ロイター社) のキャラクターを制作した。

唯一キャラクター化を断念したのは、アメ

リカ国立医学図書館が運用する PubMed だった。メールでやりとりをする中で、相手方の利用規約上、キャラクター化は困難であると主担当者間で判断したからである。そのため、PubMed を紹介する際は、島根大学附属図書館の OPAC のキャラクターに代弁させることにした。

3. 制作期 (2016 年 4 月～2017 年 1 月)

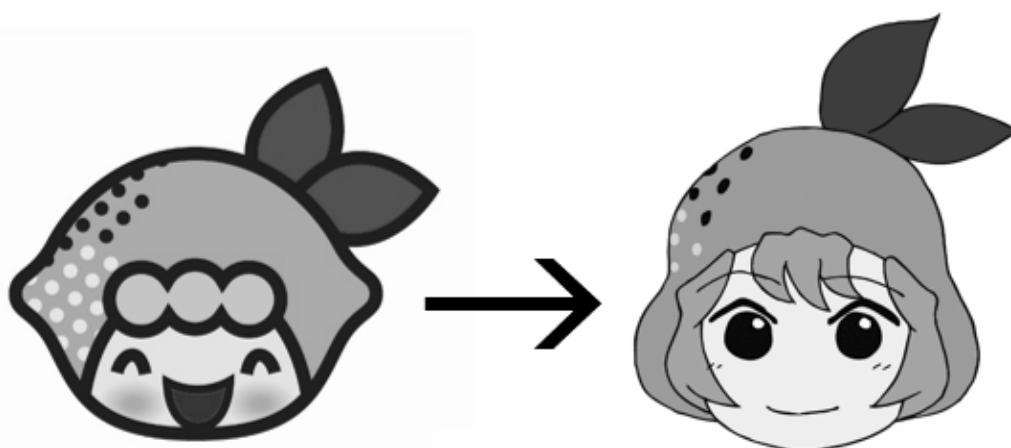
イラストレーターには一作品につき 4 コマまたは 8 コマで完結する漫画を制作してもらった。漫画制作を依頼するにあたり、主担当者 2 名が分担して漫画の下書きを制作し、チーム内の承認を経てからイラストレーターに送るという手順をとった。各漫画に概ね共通する流れは、学生の立場になるキャラクターの前に課題やレポートを言い渡す怪人が登場した後、各データベースを擬人化したキャラクターが課題解決のための手助けをするというものだ。課題を出された学生のキャラクターには、本学図書館で以前から使用していた「みいなちゃん」や「けんさくくん」等のキャラクターを使用した。ただし全く同じキャラクターを使用するのではなく、漫画を描くイラストレーターがリライトすることで、当サイト制作のために作られたキャラクターとのイメージ的なつながりを持たせている (図 2)。漫画の下書き制作段階で、筆者が個人的に心がけたのは、各データベース等の特長が混同されずに伝わるようにすることだ。そのため、2 または 4 コマを一区切りとし、それぞれ異なるデータベースに光があたる

よう工夫した。たとえば「日本語論文を探すには?～医学編～」では、医中誌 Web とメディカルオンラインを説明するが、医中誌 Web の登場は前半 4 コマまでに納め、後半 4 コマではメディカルオンラインを紹介する (図 3)。

イラストレーターには漫画内の台詞を書き込まない状態でデータ納品をお願いし、イラストレーターから受け取った漫画データの吹き出し内にチームが台詞を入力した。これは、今後の本学図書館のシステム更新や契約の変更に伴って文言を容易に書き換えることができるようにするためだ。なお、台詞に直接かかわらない漫画の表現については、イラストレーターに一任する部分も多かった。また、イラストレーターの求めに応じて図書館内の写真等を提供した。漫画制作依頼と並行して、主担当者が当サイトのデザインを行った。会議開催のたびに、チーム全体でこれらの漫画やデザインの内容と進行状況を確認・共有した。会議での確認の過程で、キャラクターの紹介や利用者が本学図書館に問い合わせを行うためのページを加えること、簡易かつ洗練されたデザインができることを理由に WiX というホームページ制作支援 web サイトを使用することが決まった。

4. イラストレーターや東映株式会社との著作権処理期 (2017 年 2 月～2017 年 5 月)

2017 年 2 月には依頼したイラストや漫画が出そろい、デザインもほぼ完成し、予定通り公開が行われると思われた。しかし当



本学図書館で以前から使用していた
キャラクター「みいなちゃん」

当サイト用にイラストレーターが
リライトした「みいなちゃん」

図 2



図 3

サイトの提案者が、色分けされたキャラクターが複数で怪人と闘うという設定や「戦隊」という名称が、東映株式会社の「スーパー戦隊シリーズ」の著作権を侵害する可能性に気づいたため、東映株式会社との著作権処理を行うこととなった。東映株式会社との契約に先立って、イラストに関する権利関係を明らかにするため、口頭やメールでのみイラスト作成業務の委託を依頼していたイラストレーターと改めて書面で契約を結んだ。また、当初は本学図書館と東映株式会社とで契約を結ぶという想定で話を進めていたが、学内の契約担当部署からの指摘を受けて島根大学長が契約主体となった。変更に伴う学内調整が終了し、東映株式会社との契約書面を取り交わしたのは 2017 年 5 月 1 日であった。その後、デザイン面での最終調整を経て、2017 年 5 月 9 日に当サイトを正式に公開した。

IV. 問題点の改善案

当サイト制作に関して、イラストレーターとの契約面および他部・課との連携の面において特に改善すべき点が多い。まず、イラストレーターとの契約では、当初の業務委託の契約を口頭やメールのみで行ったことが問題だった。これでは業務を委

託する時に契約内容が不明瞭となってしまう。依頼開始時点で文書をかかわなかった最大の理由は、イラストレーターとの連絡を担当した著者がその必要を覚えなかったことである。イラストレーターがかつて本学図書館に関係した人であるが故の甘えであり、大いに反省すべき点である。続いて東映株式会社との契約についてつまづきがあった。それは当サイトが東映株式会社の著作権に触れる可能性について公開直前までチーム内で意識されていなかったこと、つまりは他者が権利を持つ商標等を使用する場合の契約に関する認識が不十分だったことである。図書館では、主に学内・学外への文献複写等通常の業務で著作権と常に向き合う。一方で、通常業務外の著作権についてはそれほど意識していなかったことが今回の当サイト制作で明らかになった。東映株式会社との契約について「図書館内で完結するもの」との認識が著者自身も含めてチームの中にあつたのも、つまづきの原因と推測する。もし、初めから他部署との連携がとれていれば、当初の予定通り 2017 年 4 月に当サイトを公開できたかもしれない。上述の 2 点について、次のような改善方法が考えられる。まず提案がなされた時点で、権利処理が必要になる権利を洗い出し、どのような契約が必要となるかを整理するこ

と。そして、各種契約・著作権処理が必要なことが想定されたら、館内・学内の前例を調べ、各処理に関わる手順を事前に把握しておくことである。もちろん各手続きや処理に際しては、学内規則との整合性をとることを忘れてはならない。

V. おわりに

キャラクター化した各データベースの提供元に当サイトを公開した旨を報告したところ、多くの機関・会社から嬉しい反応をいただいた。メールで訂正点を指摘されたり、本学図書館への来館時に直接感想を寄せてくださったりした機関・会社もある。カレントアウェアネス・ポータルに掲載され¹⁾、Twitter等のSNSにも情報が流れたこともあってか、学内はもとより学外の方からの感想を目にする機会があった。Twitterでのつぶやき等を読むと、学外の方にとっては東映株式会社と契約を結んでいるという点が最も耳目をひいたことがわかる。例えば「#図書館サイトほめよう」というハッシュタグを用いて様々な図書館のwebサイトを紹介している@Yaskohiさんは当サイトを「CiNiiやNDLサーチなどのデータベースをポップなイラストで擬人化(戦隊化)。東映との契約など、明後日の方向へガチな感じがとても良い感じ」とツイートしている。データベースを初学者にとってわかりやすく身近なものにするという目的を超え、話題を提供できたことは著者にとって予想外の驚きだった。

2017年5月に当サイトを公開してから本稿執筆時点(2017年7月)で2ヶ月しか経過しておらず、本格的な利用状況の分析はできないが、現状のみ報告したい。まず公開後1ヶ月間の当サイト閲覧数はちょうど1,000であった。2016年度の1年間を通したLibGuidesの閲覧数が1,200ほどということを見ると、話題性も相まって通常よりも多くの方が当サイトを閲覧したことが分かる。一方で、LibGuidesの2017年5月～6月の閲覧数は299であった。昨年同期間の閲覧数が302であることを考えると微減で、当サイト制作にあたって期待した効果は未だ達成されていないことが分かる。当サイトが将来的に肯定的な評価を得られるかどうかは、今後の運用にかかっている。まずは学内での当サイトの知名度をあげることが大切である。その方法として、当サイトやLibGuidesの広報の他、各キャラクタ

ーたちの活躍の場を当サイト以外にも広げることが検討すべきだ。たとえば、文献検索講習会のパワーポイントにキャラクターを使用したり、キャラクターを使用したデータベースの利用法を記したパンフレットやグッズを制作したりすること等が考えられる。

今後も当サイトの運営を続けるとともに閲覧状況を分析して、当サイトと各キャラクターをよりよい形で活用できるよう努めていきたい。

謝辞

本稿の題材となる「来たぞ!データベース戦隊!」制作にあたりデータベース等をキャラクター化させていただいた各機関・社の皆様、データベース戦隊という名称と設定等の使用にあたり契約を締結していただいた東映株式会社様に篤く御礼申し上げます。また、主担当者の依頼に応じて常に想定以上のものを提供して下さったイラストレーター・オオツカタクト様に心から敬意と感謝を表します。

参考・引用文献

- 1) 島根大学附属図書館, 初学者向けデータベース紹介サイト「来たぞ!データベース戦隊!～島大図書館での資料の探し方～」を公開. [internet]. カレントアウェアネス・ポータル. 2017. <http://current.ndl.go.jp/node/33965> [accessed 2017-08-17]